

「四街道市のまちづくりを考えよう」メールモニター第2回アンケート調査結果

第2回メールモニターアンケートを実施しました。

メールモニター登録者に対する質問内容と主な意見は下記のとおりです。

記

質問項目	・平成24年度に実施した「まちづくり市民会議（ワークショップ）」の報告書を送付し、各グループ（A～D）ごとの対応策について、それぞれ、重要度が高いと考えられる順位を伺いました。
送付資料	・まちづくり市民会議（ワークショップ）報告書 ⇒平成24年度に実施した市民会議報告書
集計方法	集計に当たり、各グループ（A～D）ごとの対応策について、メールモニターが重要と考える対応策の順位を決定していただき、その順位に対して以下のポイントを配点し、回答者分を合計して、重要度順位を決定しました。 ※順位：得点 1位：10点、2位：8点、3位：6点、4位：4点、5位：2点

まちづくり市民会議（ワークショップ）から提案されたアイデア

Aグループ（子育て、教育、文化）

		対 応 策	具 体 的 取 組 名	具 体 的 内 容	メールモニターが選ぶ重要度順位
子育て	1	子育て支援 （就学前の子ども向け）	よつかいどう子育てオリジナルプログラムの構築と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠、出産を経て、小学校に上がるまで、どのようなサービス提供が行われているのか一覧となるものを作成し、母親が子育て中に安心できる体制が四街道にはあることをPRする。 ・悩んだとき、迷ったときに相談できる場や、同年齢の子を持つお母さんと会える場所を定期的に開催し（毎月〇日など）、定例化することで周知し、存在感を高める。 ・小さい子を育てるための母親教室を開設する。 	1位 (58点)
	2	子育て支援 （小中学生向け）	心をほぐす居場所づくり 「〇〇（地域名）ほっとルーム」開設	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の居場所づくり。放課後および休日に開設する。 ・地域住民（高齢者など）と子どもの交流の場をつくる。 ・勉強・遊び・作業など好きなことに取り組む。 ・実施場所は、学校、児童館、自治会館、集会所などを利用する。（わろうべの里、プレイパークも含む。） 	3位 (42点)
教育	3	地域住民と学校の連携強化 （連携の双方向化）	一方的支援から双方向的協力による教育 「〇〇（地域名）協育会」の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の三者が力を合わせ、心を一つにして子どもを育てる。 ・上から目線ではない連携体制づくりを行う。 ・家庭・地域からの要望に応える教育への道づくりを行う。 ・子どもたちの現状を中心として話し合い、情報を共有する。（情報共有の道づくり） ・話題を小さく限定しない。 ・家庭・地域の要望などの反映だけでなく、研修的取組も行う。 ・教員・地域住民（保護者・保護者OB、子どもなど）で設置・構成する。 ・運営委員会（学校側、地域側）を決めて運営する。 	2位 (44点)
文化	4	文化活動の場の充実	文化振興ビジョンづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化振興ビジョン」を策定し、四街道全体の文化振興の方向性を明確にする。 ・実際に活動している団体の意見を取り入れてビジョンづくりを推進する。 ・文化センターで市民が運営に関わる仕組みづくりを盛り込む。 	6位 (14点)
文化	5	生涯学習の充実 （協働について学ぶ場の設置）	「生涯学習大学」の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市の協働のまちづくりについて学べる場をつくり、四街道市民大学に代わる「生涯学習大学」のカリキュラムとする。「IT」や「英語」、「楽しい自治会運営」等も盛り込む。 ・卒業生は卒業後に活動する場を市役所内に設置する。 ・市民との協働で行う事業の企画、運営を実施するなど、市職員とともに活動できる場をつくる。 ・市役所の仕組み、組織、財務などにおいても、しっかり学び、そのうえでどのように市民が関わるべきか学ぶことで、市のよき理解者を増やす。 	5位 (22点)

まちづくり市民会議（ワークショップ）から提案されたアイデア

Aグループ（子育て、教育、文化）

		対 応 策	具 体 的 取 組 名	具 体 的 内 容	メールモニターが選ぶ重要度順位
文化	6	図書館機能の充実	図書館機能充実検討会の立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を新設するのか、機能をどう強化するか、お金をどのくらいかけるのかなど市民の意見を聞く。 ・市民の合意形成と検証のため、アンケート調査を実施する。 ・お金をそれほどかけない方向性の場合、機能の見直し、強化について市民を含めた「図書館機能充実検討会」を立ち上げ、その意見を図書館機能の充実に反映させる。 ・図書館、文化センター、みんなで地域づくりセンターの一体的活用を検討する。 ・図書の電子化（電子図書）を踏まえて、図書館の機能、あり方を議論する。 	4位 (30点)

まちづくり市民会議（ワークショップ）から提案されたアイデア

Bグループ（産業、環境）

		対 応 策	具 体 的 取 組 名	具 体 的 内 容	メールモニターが選ぶ重要度順位
産業	1	自然を活かした観光産業の育成	四街道ツアーによる観光客の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道ならではの、身近な自然という魅力を活かしたツアーとする。 ・ツアーは季節ごとの自然にあわせた内容とする。 	4位 (22点)
	2	自然を活かした観光産業の育成	四街道ならではの土産をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道産の小麦を活かし、小麦粉や加工したパンなどの土産をつくる。 ・その他、四街道の産品を加工した土産をつくる。 	4位 (22点)
	3	駅周辺の活性化	四街道産品を販売する店舗の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道ならではのお土産や農産物など、四街道産品を扱う販売所を駅周辺に誘致し、駅周辺の活性化を図る。 ・道の駅のような店舗とし、来街者にも買ってもらうだけでなく、市民も身近に利用できる店舗とする。 	3位 (38点)
	4	駅周辺の活性化	市民が集うイベントの定期開催	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の公園や道路を使い、カフェや青空市、バザールなどのイベントを開催し、市民が集まれる空間をつくる。 ・定期的にイベントを開催することで、駅周辺では常時何かのイベントが開催されていることを市民に周知し、賑わいを創出する。 	1位 (46点)
環境	5	まちの緑や里山など豊かな自然の保全	四街道の自然のブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道では身近な存在だが、貴重な資源である里山やサクラソウ、野生バラなどの自然を四街道ブランドとして確立する。 ・都会に近い田舎という四街道市の持つ強みを活用して、市民だけでなく、市外、県外の人も身近に触れられる自然としてPRする。 	2位 (44点)
	6	ゴミ処理に関する拠点整備	ゴミ分別に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを減らす工夫や、分別の必要性などゴミ処理と自然環境の調和に関して、市民の知識を深め、意識の向上を図るための情報発信を強化する。 ・クリーンセンターの愛称を募集したり、見学会を実施することで、市民のクリーンセンターへの認知度を高め、ゴミ削減への自覚を高める。 	6位 (20点)
	7	ゴミ処理に関する拠点整備	リサイクル工房の新設によるゴミの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・使用できなくなった家具や家庭用品などを再生するリサイクル工房を新設し、リサイクルによるゴミの削減と資源の有効活用を図る。 ・市民のリサイクルへの意識を高め、不法投棄のないまちづくりにつなげる。 	7位 (18点)

まちづくり市民会議（ワークショップ）から提案されたアイデア
Cグループ（健康、医療、福祉）

	対 応 策	具 体 的 取 組 名	具 体 的 内 容	メールモニターが選ぶ重要度順位
健康	1 健康づくり （生涯学習含む）	高齢者の活用を図る （現在ある高齢者の組織の活用を図る）	<ul style="list-style-type: none"> ・主として高齢者が加入している同好会などの既存の組織（健康づくりを目的とするもの以外も含む）に対して、健康づくりについてのセミナー等の企画を行い、参加者の増加やリピーターの増加を狙う。 ・市のホームページに、この取組のコーナーを設け、既存のネットワーク（組織＋ネット）が書き込み自由にできるようにして、情報の伝達を容易にしたり、共有化できるようにする。 ・高齢者が情報端末を使えるようにするため、同好会を対象に、情報端末（スマホ・iPad等）の利活用セミナー等の企画を行い、ネットワークの利用を普及させる。 	3位 (38点)
	2 健康づくり （生涯学習含む）	各地区の自治会館・公民館などの取組を増やし、参加率の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防、健康を促進するための取組を住民に最も身近な各地区の自治会館・公民館などで実施し、参加率の向上を図り、予防を推進する。 ・実施する項目としては、健康づくり（介護予防も含む）のための筋トレ運動（器具の整備）、各種検診、健康についての出張カウンセリングなど。 	5位 (22点)
医療	限られた医療資源を生かす市と市民の取組	地域、広域病院への情報提供・市と病院の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市及び病院（市内だけでなく四街道市民が多く利用する周辺の病院も含む）が連携し、市民の健康などについての情報を共有し、（同意した人に限るその情報を健康づくりに役立てていく。 ・例えば、市民の健康状態、病歴、投薬状況などに関する情報をICカードの書き込み、携帯できるようにするほか、本人の同意の下、市内及び周辺の各病院で読み取れるようにするほか、救急車や救急医療現場でも使用できるようにすれば、正確な情報を医療関係者などが共有できることとなり、的確な医療サービスに結びつけることが出来る。 	2位 (46点)
福祉	介護を中心とした高齢者福祉の推進	在宅介護者（家族介護者）への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進むとともに、介護状態となる人が増えることが想定されているがそれらの人の中でも、在宅で介護を受ける人も増えていくことが予想される。 ・在宅介護の場合、介護保険でカバーできる部分もあるが、大きな部分が家族介護となる。その場合、介護者は、全く知識のないまま、いきなり介護者としての仕事をしなくてはならなくなり、その負担も大きくなる。 ・そこで、在宅介護者（家族介護者）の教育（介護教室など）と、ケア（介護休暇制度、カウンセリングなど）をしていく仕組みが必要となる。 	1位 (50点)
福祉	5 安心して暮らせる高齢者福祉の推進	地域に根ざした支え合いの場を設ける	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の価値観の拡大、核家族化の進展などにより、地域の連帯感が希薄化したといわれている。 ・ますます高齢化する現状をみると、従来型の公的福祉サービスだけでは補えないニーズ（「制度の谷間」）への対応が求められる。 ・これらのニーズに応えるため、相身互い、お互い様の精神に基づく支え合いの場を設ける。 ・具体的な取組としては、電球の交換、買い物の補助、見守り、送迎など、日常、普通の家庭では家族が行うが、高齢者の一人住まいや高齢者のみ世帯では難しい、ちょっとしたことの支援をする。 	4位 (24点)
	6 地域福祉のネットワークの形成	地域福祉情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・行政から発せられる既存の福祉に関する情報が、面白みがなく、読みづらいことから、新たな視点での情報提供を考える。 ・担当する組織も縦割りではなく横断的に機能し、それらが協力することによりネットワーク化を図り、提供する福祉の情報に漏れのないようにする。 ・市役所の福祉関係の課に所属する女性職員のみが編集にかかわる情報誌を創設する。 	7位 (14点)
	7 地域福祉のネットワークの形成	世代間交流の活発化 （高齢者向けと子ども向けの取組を包括的に行う組織を作る）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けと子ども向けの取組を包括的に行う組織を作り、行政が支援できない隙間を埋める様々なイベントや講座、プログラムなどを仕掛けていく。これにより高齢者の知識や知恵が地域に還元される。 ・例えば、高齢者が子どもを教える寺子屋、食育教室など。 ・活動拠点は小学校の空き教室などとし、活動範囲は小学校区を基本とする。 	6位 (16点)

まちづくり市民会議（ワークショップ）から提案されたアイデア

Dグループ（都市基盤、防災）

		対 応 策	具 体 的 取 組 名	具 体 的 内 容	メールモニターが選ぶ重要度順位
都市基盤	1	公共交通の充実	循環バス・路線バスの見直し （超高齢社会に対応した移動手段の確保）	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通（循環バス・路線バス）に関して、①通勤・通学利用、②高齢者・障害者の利用③買い物利用の3つの視点を中心に市民ニーズを把握・分析する（アンケート調査の実施）。 上記市民ニーズをもとに、超高齢社会に対応した移動手段のあり方を市民と行政と一緒に考える。具体的には以下の2点。 地域性を考慮した、利便性が高く使い勝手の良い（乗車率の高い）「循環バスの運行計画」を、市民と行政の協働で検討し作成する。 あわせて、公共交通では対応しきれない移動ニーズ、特に高齢者や障害者の通院・通所等のニーズへの対応として、「有償福祉輸送」（ボランティアタクシー）のような仕組みも検討する必要がある。 	2位 (56点)
	2	駅周辺の整備	駅周辺の交通の円滑化と安全対策 （快適で美しい「まちの顔」の基礎づくり）	<ul style="list-style-type: none"> 四街道市の顔であるJR四街道駅の駅前周辺地区（北口側・南口側）について、「駅前ロータリーへの時間帯別乗り入れ規制」と「歩道の拡幅とバリアフリー化、駅前を通る通過交通を、駅に向かう事前の道路に的確な誘導標識を整備することで、駅前通過交通を別の道に誘導するなど若干のハード整備」及び「市民各自の意識改革を促す啓発活動」により、恒常的に発生する渋滞を軽減させる。 この取組を、市民と行政と周辺企業等が協働で検討し、実施する。 	1位 (60点)
防災	3	防犯対策の充実	コミュニティの再構築・育成 （防犯・防災対策推進の土台 ＝住民相互の支え合い）	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や家族の生命の安全に直接関わる「防犯」（不審者等による犯罪抑止等）や「防災」を主たる目的として、地域コミュニティの再生・育成を、地域ごとに住民主導を進める。 そのための計画とアクションプランづくりを、市民と行政の協働を進める。 	4位 (36点)
	4	防災対策の充実	予防・減災対策の強化 （東日本大震災の教訓を生かした 行動計画の作成）	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとの特性を踏まえた災害・被害想定を行い、それに基づく予防対策（予防・減災計画）を立て、この計画を実行するための行動計画を、市民と行政の協働で作成する。 専門的なところは行政、自助や共助の部分は市民も一緒に考える。市民が計画づくりに参画することで、趣旨や内容を共有し、実効性の高い計画とする。 	3位 (44点)

自由意見（こちらの欄は、上記「対応策」に対する意見及び上記以外に必要なと考える対応策と具体的取組に対する自由意見）

- ・ 少子高齢化が進み、どこの自治体も似たような問題を抱えている。問題の程度によっては、四街道市だけでなく、近隣の市町村、県、国で解決（予算や法律・条例）が必要です。「Aグループの提案にあった「四街道ならではの」仕組み」を作ることが、全てのグループで共通課題と思います。
- ・ 図書館の機能は分散して「第2庁舎」と共有するのはどうか。また、四街道のブランドなども必要です。
- ・ フルタイム勤務ですと、平日は自宅以外は、駅周辺のみしか立ち寄らないこととなります。しかしながら四街道駅前は「ちょっと立ち寄ろう」と思えるような魅力的な店舗や文化が少ない。また、図書館も駅からのアクセスが悪く、わざわざ足を向けようと思わずらいです。駅ビルや駅周辺の土地を有効利用し、市の出張所、図書館の出張所、四街道の物産を扱う店舗などを置くとか、おしゃれな雑貨店などを誘致していただくと生活が楽しくなります。アンケート意見の中のB-4駅前のイベントはすごく共感できました。今後、高齢化にもなってくるが、人生の先輩方の豊かな経験や知識や知恵を埋もれさせることなく、良い意味で大いに利用させていただくような仕組みを作っていって欲しいと思います。
- ・ 考えられることはほぼ出されたと思います。今後、煮詰められたこれらの施策がいかに具現化、実施されることの方策が問われます。一つでもいいから着実に、タイムスケジュールの基に実行していただきたいです。
- ・ 若い年齢層を集めるためには、子育て支援が重要である。そこに、地域や高齢者の協力を仰ぎ、合わせて、生きがいつくり、いじめ防止にも繋げるようなすべての項目が有機的に繋がるのが「まちづくり」ではないのか。子育てに各項目全てを関連付けて、内容を練るべきである。子育てにおいても、就学前の子供向け、小中学生向けだけでなく、収入を得るまでの層、つまり就学前から大学生までを子育てと考え、保育園・幼稚園から学童保育、給食・教材・授業料免除、JR終電時刻の延長、医療費免除、奨学金制度の見直し（無利子、月々返済額の柔軟化など）等、市民が子育てで困っていることを解決する「まちづくり」を目指すべき。
 - ◎：例えば、イジメのない学校を売りにする。親が一番気にすることではないか。「四街道市の学校には、イジメがない。」（もちろん、隠蔽ではなく、事実として）これだけでも、若い親は転入を希望する。
 - ◎：安価な賃貸住宅を提供し、若者の定住促進を図る。具体的には、旭ヶ丘・みそら・千代田の空き住宅を市が買い上げ、市営住宅として、大学生、若い夫婦に地域活動への参加を条件にした上で超安価な賃借料で提供する。周辺の高齢者対応としても、空家対策の一石二鳥である。
 - ◎：保育園、学校保育の充実を図る。共稼ぎの若い夫婦が増加していることは誰もが理解しているはずであるが、その対策が十分打てていない。まず、保育園待機児童を早急に解消することである。共稼ぎであるから、交通の便が良くないと話にならない。駅ビルの中がベストであるが、とりあえずは駅に近い第二庁舎及び消費者センターを保育園並びに学童保育に改造すべきである。市民ギャラリーは文化センターへ、消費者センターは保健会館に移転すべきである。思い切ってやれば、出来るレベルです。共稼ぎであれば、午前7時の受付、午後8時までの子供預かり制度が必要である。さらに、その組織には、保母資格を有した専門職を数人抱え、その下で父母会の協力と子育てを卒業した高齢者を雇うなどで費用を抑えた方法を考えるべきである。

実施期間：平成24年12月13日～平成24年12月27日

メールモニター登録者：16名

回答：8名